

4年言語と文学 (MYP 5 Language and literature) 【現代の国語：2単位 / 言語文化：2単位】

科目のねらい

MYP「言語と文学」のねらいでは生徒が以下のことができるように期待されています。

- ・言語を思考、創造性、振り返り、学習、自己表現、分析、および社会的な相互作用の手段として利用する。
- ・さまざまな文脈で、聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと、見ること、発表することに関わるスキルを身につける。
- ・文学および非文学のテキストを学習し分析することへの、批判的で創造的で個人的なアプローチを探究する。
- ・歴史上のいろいろな時代とさまざまな文化のテキストに取り組む。
- ・文学および非文学のテキストを通して、自分の母国や現在住んでいる国の文化、その他の文化を探究し、分析する。
- ・多様なメディアや伝達様式（モード）を通して言語を探究する。
- ・生涯にわたる読書への関心を育む。
- ・実際のさまざまな文脈において、言語的・文学的な概念とスキルを応用する。

目標および評価基準

MYP 評価観点	
A:分析	i) テキストの内容、文脈、言葉、構造、技法、およびスタイル（文体）と、複数のテキスト間の関係性を特定し説明する。
	ii) 作者の選択が、受け手に与える効果を特定し説明する。
	iii) 例、説明、用語を用いて、意見や考えを正当化する。
	iv) ジャンルやテキストにおいて、または複数のジャンルやテキストにわたって、特徴の類似点と相違点を解釈する。
B:構成	i) 文脈と意図に応じた組織的構造を使用する。
	ii) 意見や考えを、持続的で一貫性のある、論理的な方法で整理する。
	iii) 執筆のフォーマットを利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する。
C:創作	i) 創造的プロセスへの個人的な関わりから生じる新しいものの見方や考え方を探究し検討しながら、思考、想像力、感受性を示すテキストを創作する。
	ii) 言語的、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手に与える影響を認識したスタイル（文体）を選択する
	iii) アイデアを発展させるために、関連する詳細情報と実例を選び出す。
D:言語の使用	i) 適切で多様な語彙、構文、表現形式を使用する
	ii) 適切な言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す。
	iii) 正しい文法、統語法、句読法を用いる。
	iv) 正確に綴り（アルファベット言語）、書き（文字言語）、発音する。
	v) 適切な非言語的コミュニケーション技法を利用する。

※ねらい・目標の記述は、IBO発行の「Language and literature guide」に基づいています。

関連概念（言語と文学の学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

受け手側の受容	登場人物	文脈	ジャンル
テキスト間の関連性	視点	目的	自己表現
設定	構成	スタイル（文体）	テーマ

年間計画

時期	ユニット	1. 重要概念 2. グローバルな文脈 3. ATL	学習内容・教材等	総合的評価課題の MYP 評価観点（【 】内） および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
前期 (4月～9月)	1	1. ものの見方 2. 科学技術と発展 3. 批判的思考、転移	評論 ～科学技術と人間～ 【現代の国語】 知識・技能 (1) アウエオカ (2) アイウエオ 思考・判断・表現 B(1) アイウ C(1) アイ (教科書) 「まちの豊かさとは何か」他	エッセイ「科学技術と人間」に関する考察 【A】科学技術と人間の関係を考察した評論文を要約・分析し、筆者の意見を正しくとらえる。 【B】発明と人間の関係について、二項対立的を用いた組織的な構造を用いて考察する。 【C】筆者の主張に対する新しいものの見方や考え方を探究・検討し、自分の意見を記述する。 【D】適切で多様な語彙を使用し、明確に表現する。	①知識・技能-A ②思考・判断・表現-BC ③主体的に学びに向かう態度-D
	2	1. 文化 2. 個人的表現と文化的表現 3. 情報リテラシー、批判的思考	古文読解 【言語文化】 知識・技能 (1) アウエオ (2) アイウエカ 思考・判断・表現 A(1) アイ B(1) アイウエオ (2) アイウエオ (教科書) 『芥川』『東下り』『筒井筒』他	翻訳「選択した古典文学作品における、文化的背景やコンテキストを踏まえた翻訳の創造」 【A】文脈、語彙、構造、技法および文化的背景を翻訳に活かす。 【C】作品における文化的背景などを調査し、それらを翻訳にどのように活かしたのかを的確に示す。 【D】古典文法を正しく理解したうえで、翻訳にふさわしい効果的な言語表現を用いる。	①知識・技能-D ②思考・判断・表現-A ③主体的に学びに向かう態度-C
後期 (10月～3月)	3	1. ものの見方 2. 公正性と発展 3. コミュニケーション、批判的思考、転移	表現の深層 【現代の国語】 知識・技能 (1) アイエオカ (2) アイウ 思考・判断・表現 A アイウ B アイ 安部公房「良識派」 三崎亜紀「ゴール」 (石井美保「鳥の眼と虫の眼」)等	提言「表現の深層にある偏見」 【A】対象作品の表現をどのように分析したかを示す。 【B】自身の考えを論理的に整理し、正しく効果的に他者へ伝える構成や流れを判断し使用する。 【C】対象作品から、示された課題や表現に対する新たな見方を提示する。 【D】適切な語彙および非言語コミュニケーション技法を効果的に使用する。	①知識・技能-D ②思考・判断・表現-AB ③主体的に学びに向かう態度-C
	4	1. つながり 2. 時間的・空間的位置づけ 3. 批判的、創造的、転移	つながりと再構築 【言語文化】 知識・技能 (1) アイウエオ (2) アイウエオカ 思考・判断・表現 A(1) ア B(1) アイウエオ (2) アイウエオ (教科書) 『羅生門』『羅生門の上層に登りて死人を見たる盗人のこと』、 『香炉峰下新ト山居』 『雪のいと高う降りたるを』他	エッセイ「文学作品の変遷と影響」 【A】複数のテキストにおけるテーマ・モチーフ等の共通性や差異を分析する。 【B】分析の根拠を論理的に説明する。 【C】個人的な関心から生じる新しいアイデアを探究し、選択作品の変遷や影響に関連づける。 【D】選択作品の文法事項等について正しく理解し、適切で多様な語彙を使用し、明確に表現する。	①知識・技能-D ②思考・判断・表現-AB ③主体的に学びに向かう態度-C